

## 感じる手紙

郵便ポストを開ける瞬間がとても好きだ。どきどきして、なんともいえないあの感じ。しかも、私宛ての手紙が来ているときは開ける前からなんとなく分かる。不思議だけれど、手紙が来るということは相手の思いがこちららにむいていていることなのだと思う。私は今、海外に住むペンパルと手紙をやりとりするのにはまっている。フィリピン、アメリカ、イギリス、ブルガリア、シンガポール、様々な国の友だちがいるけれど、特に多いのが韓国出身の女の子たち。彼女たちは日本の文化にとっても興味を持ってくれている。驚くのは、漢字もひらがなも上手だということだ。手紙を開くと、日本語で丁寧に書かれた文字が並んでいる。時間をかけて書いたんだろうなと思うと、なんだか胸が熱くなる。便せんのさらさらした手ざわり、日本ではないどこかの香り、筆圧でついたすこしのでこぼこ、外国製の小さなチョコレートも時々



ついてくる。目だけでなく、五感で感じるこ  
とのできるすばらしさ。そして手紙は私の宝  
物になって、きれいな箱の中でまたふえる。

手書きの手紙は、言葉が間違っ  
ちよっと不自由な英語であ  
すべてやわらかく受け入れては  
じめからない  
ことにしてくれる。メールも  
確かに便利だけ  
れど、私は断然手紙の方が好きだ。はじめ  
のペンパルの相手に自己紹介するときもそ  
う伝える。"Snail mail"とはよく言ったもの

で手紙はメールに比べたらかたつむりのよう  
におそい。しかし私はそれをわくわくしながら  
待つ時間も好きだ。手紙が届いたときわ  
れしさが、二倍にも三倍にもなるような気が  
するのだ。手紙をやりとりすること、相手  
のことを大切にしたいという気持ちが生まれ  
る。そして手書きすることによってより慎重  
になれる。何度も書き直したりながめたりし  
て愛着がわく。手を動かすことは、私たちに  
忘れていた大切なことを思い出させてくれる。